

自ら求めて問題を見出し、追
究しようとする子どもの育成

いわき市立郷ヶ丘小学校

児童が自ら求めて問題を見出し、
追究しようとする主体的学習態度を身
につけさせるためには、ゆとりある充
実した授業の展開により、児童一人一
人にじっくりと学習に取り組ませて喜
びや成就感が味わえるようにすること
が大切である。

以下、二か年にわたる研究実践の中
から学習指導に重点をおいて述べる。

一 研究内容

(一) 指導計画の改善

(1) 研究で目ざす児童の姿
(2) 学習指導法の改善・充実

(二) 文学教材の基本的指導過程

① ひとり学習
② 相互学習

(3) 指導内容の精選、重点化とひとり
学習

二 研究実践の内容

(一) 指導計画の改善

(1) 改善の視点

① 学習指導要領の目標内容の分析

② 指導内容の系統性の把握

③ 基礎的・基本的内容の重視

④ 児童の主体的学習の重視

⑤ 地域および児童の実態の把握
教材の精選

(2) 次の点に配慮し、精選を図った。

① 指導要領の目標や指導内容の分析

② 教材の分析

③ 児童の能力や発達段階に即応した
教材の選択

④ 基礎的・基本的な能力の向上

⑤ ゆとりをもって取り組める量と質

(3) 指導計画の作成(次ページ表)

① 学習指導要領の目標・指導内容の
系統性を把握した。

② 国語力や情意面等についての児童
の実態を把握した。

③ 教材内容の分析により、精選と重
点を図った。

④ 学校の教育目標、研究主題とのか
わりから、単元における「指導
の重点や手だて」を明確にした。

⑤ 「ひとり学習」の時間を重視し、
児童がじっくりと考える時間の確
保を展開の中に位置づけた。

⑥ 主体的読みを深めるとともに、基
礎的・基本的事項をしっかりと身に
つけさせるために、読み取りに必
要な語句や重要語句を明示した。

(4) 指導計画に対する反省

指導計画の自校化は、研究主題に
せまるために、学年毎の指導方法や
手だて、また、各単元における指導
の重点が明確化されたことに成果が
見られたが、なお、反省として次の
点があげられた。

① 基礎基本の項目欄を、指導上の留

意事項として、研究テーマに直結
する指導の方法や手だてなども記
入した方がより効果的であった。

② 指導計画改善に資するため、評価
項目の記入および指導後の反省を
記入する欄が必要であった。

③ 年度始めは、事務や行事などが多
いので、第一単元には若干の時間
的余裕を持たせる必要があった。

(二) 研究でめざす児童の姿

① 自ら問題を見出し解決するため
に、その方法を工夫し考える。

② 自力で考えが及ばない時は、みん
なで考えを補い合い、難かしい問
題にあっても根気強く取り組む。

③ この解決の過程では、意見の主張
もあるが、みんなの意見にも耳を
傾け、多面的に見たり考えたりす
る柔軟性をもち、自分の考えを深
化させようとする。

(2) 「読み」の指導の手だて

① 課題を持たせるための手だて

ア 初発の感想の書かせ方を、教材
によって工夫する。

イ 全文を通すめあてやあら筋を意
識させて共通課題を設定する。

ウ 個人の課題を持たせる。

② 課題を追究させるための手だて

ア 一人学習の時間を確保する。

イ 学び方を身につけさせる。

ウ 自分の思考の足跡や変化、深化
がわかる主体的なノートづくり
に取り組ませる。

エ ひとり学習の時間における教師
の制御(指示、説明、確認など)
を極力抑さえ、個別指導や実態
把握に力を入れる。

オ 相互学習では、叙述に即して内
容を精査し練り合い、自分の考
えの修正と深化を図らせる。

③ 追究したことを確かなものにする
ための手だて

ア 低・中学年では、登場人物への
共感や感動を更に高学年では主
題に迫る感想をまとめさせる。

イ 毎時間、またはポイントになる
場面や単元の学習の最後に、自
分の学習状況を自己評価させる
ウ 深い読み取りによる感動を声に
出して朗読させる。

④ これらの手だてと並行して、児童
の資質を高めるために、日常生活
における言語教育や読書指導も強
化することが必要である。

(三) 学習指導法の改善・充実

従来の授業をふり返ってみると、教
師主導の授業からぬけきれないで、話
し合いに終始し文章から遊離しがちで
あったり、指導内容が多過ぎて児童が
じっくり学習に取り組めない場合があ
る、などが指摘される。

(1) 基本的指導過程について

読みの指導過程は通常、問題把握
↓問題の究明・追究↓発展・適用の
段階がとられる。本校では共通の学
習課題の設定↓ひとり学習↓相互学
習という課題追究の指導過程を組ん